

#### (1) 農地の確保について

農地面積の減少について記載が簡潔すぎる。農地の確保は農林だけでの問題に止まらず国全体・県全体に関わる施策であり、総合保全として反省が必要である。水源かん養に加え食料自給の面からも重要な問題である。農地面積の減少を宅地や道路開発等のあり方と併せて論じるべきである。例えば、資料 3-2 では、農地が減少し、宅地と道路は増加したという事実のみを記述しているに過ぎない。優良農地に特定しない農地の確保と保全という広い観点から、これまでの施策を反省し、今後のことについて具体的に記述すべきである。

#### (2) 耕作放棄地について

農地の水源かん養効果は高く重要なので、耕作放棄水田等に対する適切な管理（復田を含む）が必要である。

#### (3) 水田の水源かん養の効果について

水田については、地下水かん養の他、地表水の流量（流出）調節機能を発揮している。市街地での雨水ますや透水性舗装など浸透対策に比較して効果が圧倒的に高いことから、水田のかん養機能を個別に評価する必要がある。

#### (4) 農業用水の再利用について

発生源対策の効果のとりまとめにおいて循環かんがいと反復かんがいのそれぞれの施策が行われているので両方を明記する必要がある。

#### (5) 調査・研究

「調査・研究」分野において「計画施策量」での整理は、なじまない。

以上